

一学連登録状況一

日本学連事務局より、今年度の日本学連の登録状況統計が届きました（2017.8.19）。みなさんの学校の新歓はどうでしたか？部員は増えたでしょうか、楽しんでオリエンテーリング続いているでしょうか。少しずつでも、ぜひオリエンテーリングの仲間を増やしてください。

今年から学連登録が半自動化され、これまでエクセルとメールで行っていた入力作業がウェブページでのフォーム入力となり、少なくとも日本学連側の負担が大きく軽減されました。現在も学連登録の基準や方法についてより良い方法を議論し模索しています。

<北東学連>

228名。全体で26名減少している。全学連で最も加盟員数の減少が大きい。

<北信越学連>

145名。全体で22名増加している。全学連で最も加盟員が増えている。特に新潟大学で14名の増加が見られる。

<関東学連>

538名。全体で20名増加している。お茶の水女子大学、学習院大学、武蔵野大学の加盟員がゼロになった。法政大学、武蔵大学、東洋大学、東洋学園大学、聖心女子大学が新たに加盟した。学校数に変化があったのは関東学連のみである。

<東海学連>

144名。全体で16名減少している。特に名古屋大学が20名減少している。

<関西学連>

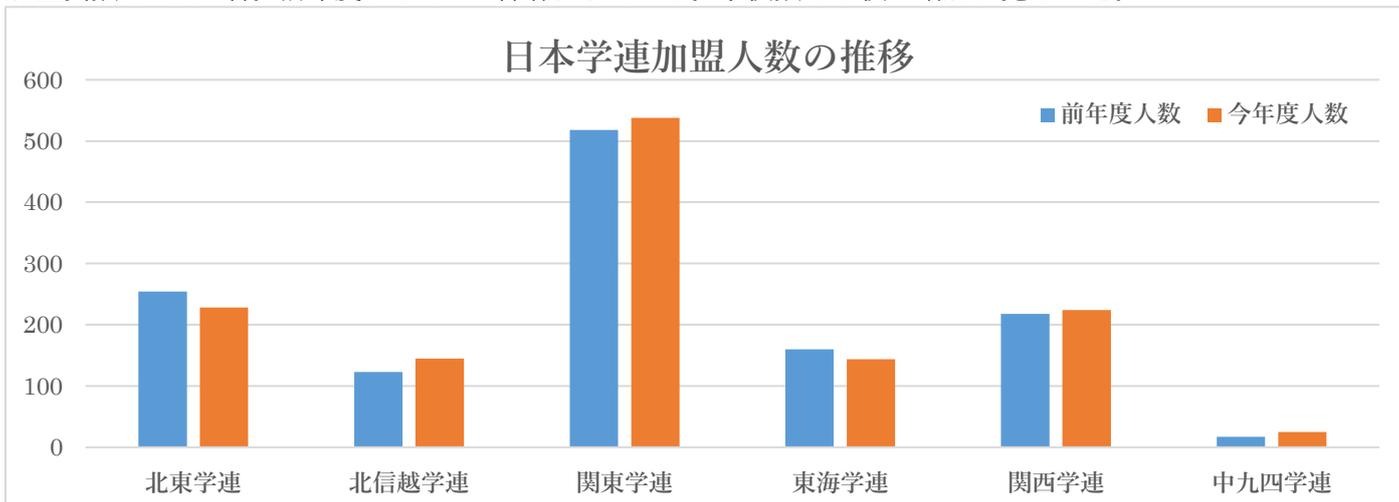
224名。全体で6名増加している。各校で増減の幅は少ない。

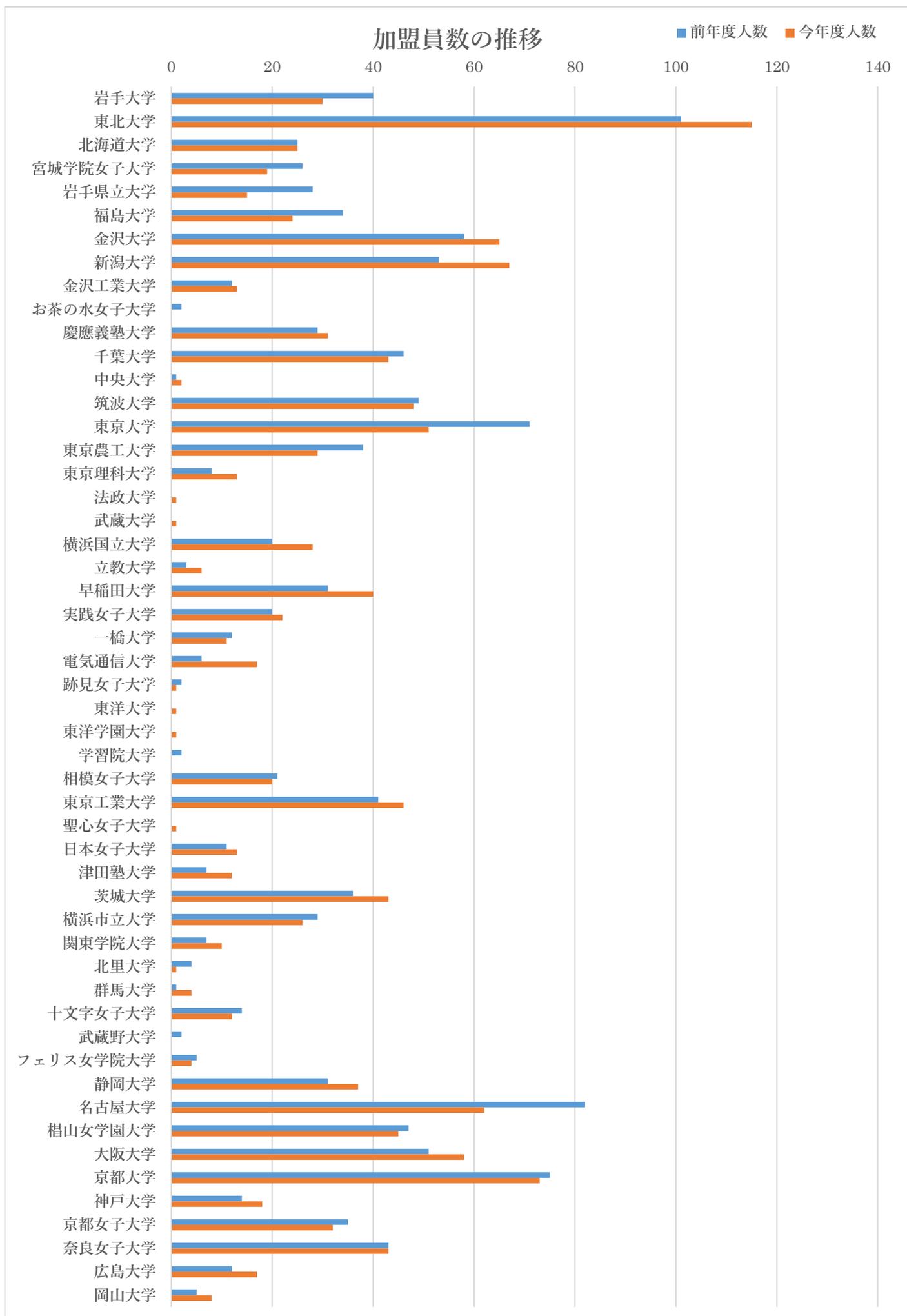
<中九四学連>

25名。全体で8名増加している。2007年度に0名となった後、2014年度の3名から、7名、17名、25名と毎年加盟員数を伸ばしている。広島大学は今年度から加盟校となった。

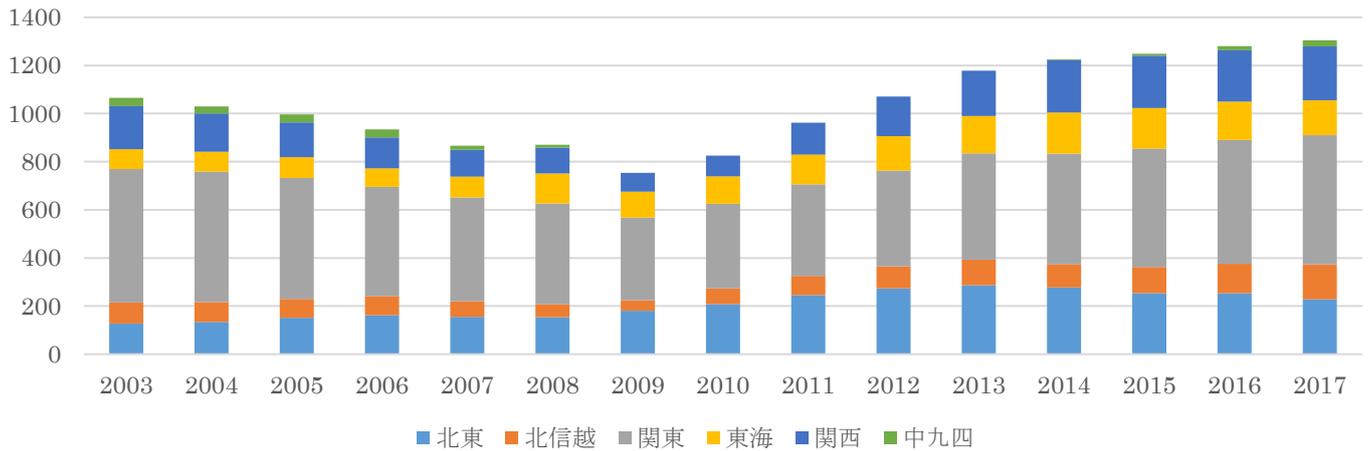
<全体>

加盟員数は1304名。前年度からは14名増加している。学校数は3校の増加が見られた。

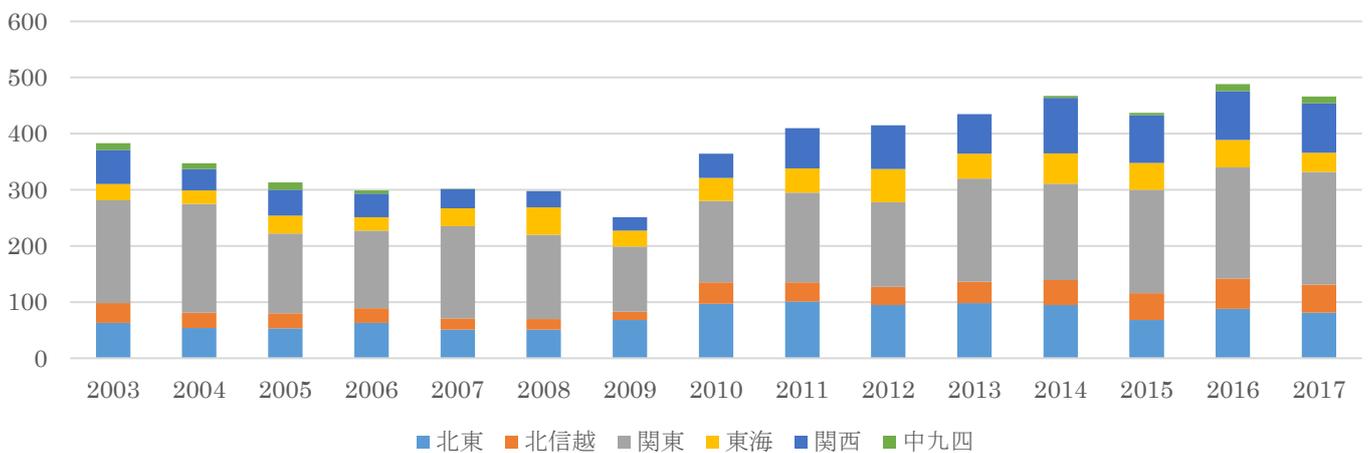




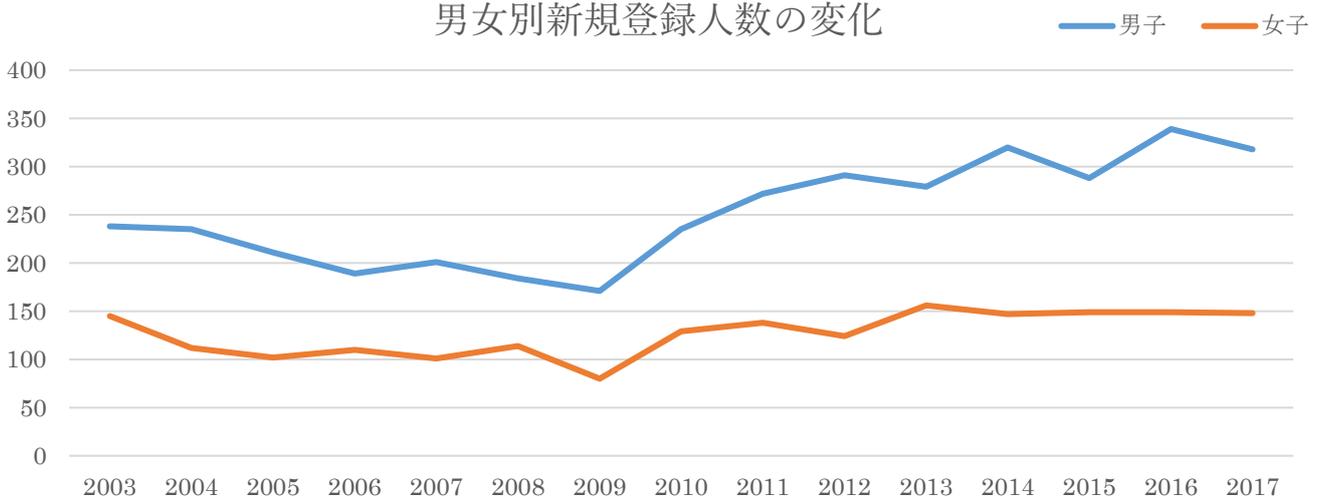
加盟人数の変化



新規登録人数の変化



男女別新規登録人数の変化



【編集者所感】

2009年の谷間の頃はインカレや学生大会の維持も困難となり、今も尾を引いている状況があります。以降、人数は増加を続けていますが、またいつ減少に転じるか分かりません。組織の安定のためにはこれらの原因分析と、普及の弛まぬ努力が不可欠だと考えています。

一新歓所感一

学連幹事と地区学連幹事から新歓の状況を報告して頂きました。

幹事長 瀬川 出

こんにちは。幹事長の瀬川です。新歓お疲れ様でした。新歓は気を使ったり、煩雑な手続きがあったり、お金もかかったりとそれなりに大変です。ですが新入生に「オリエンテーリング楽しい！」と思ってもらえた瞬間は格別な喜びがあります。何より、仲間が増えることがとてもうれしいです。

さて今年度日本学連では新歓普及活動について力を入れたいと思っています。具体的には、各加盟校が新歓で必要としていることや各校のノウハウの共有をし、日本学連として協力できることがないか模索したいと思っています。例えば今年度は学連理事を務めていただいている木村さんが発起人となって、新歓ビラを各校に無償配布しました。(この場を借りて、木村さん並びに協力者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。)

何か要望があれば、どんどん日本学連に要望してみてください。自分の学校ではやっていないことが、他の学校で当たり前のように行っていることかもしれません。なにか人数を増やすきっかけを得られるかもしれません。そのようなことを1年間議論していくつもりです。

中九四学連 山本 徳高

今年の新歓は、とにかく人数を増やそうというのが優先事項で、それはまあまあうまくいったと思います。ある程度の人数の新入部員を迎え入れることができました。ただ、新歓の際の体験会や練習会のノウハウ、新入部員への指導という点での上級生の力不足が多く見られ、そこは来年以降への課題だと思っています。

東海学連 西嶋 就平

名大は昨年と比べて現状(6/12)ではあまり入部していない。失敗してしまった要因として、昨年と比べ以下ことが挙げられる。新歓イベントの約100人集う逃走中の雨天順延となり参加者が激減したこと、新入生が一度来て2回目に繋がらなかったこと、新歓隊長(2年生の役職)の連携である。昨年の新歓隊長は、2人も下宿生であり連携がうまく取れ、何かあればすぐさま対応できていた。また、イベント後に積極的に以降のイベントの告知と募集を行っていた。

静大は例年約10人にも満たないが今年は約15人入部した。この要因としては、部活紹介の動画を早めに流せたこと、静岡キャンパス側では立て看板の設置でき、新歓活動場所が分かりやすくなったことが主に挙げられる。さらに今回は意識が高い新入生が入部したので、今後に期待である。

梶山は、入部届は数人しか出ていないが、入るという意思がある人は10人以上いる。友達と誘い合って来た人がとても多い印象である。新歓活動よりはその年々の新入生の雰囲気が変わることが大いにある。

新入生に入ったきっかけを聞くとかなりの確率でSNS(ツイッター)という声が聞かれた。今後はSNSでの拡散が重視されそうだ。

北信越学連 小山 友綺 (こやま ともき)

[学連新歓状況]

全体としては成功したと思う。学連の方に作っていただいたビラのお陰もあり、例年以上に新入生の食いつきがよかったように感じた。競技の知名度が高い訳ではないため、要点をまとめたビラがあるのはありがたかった。今後北信越全体の交流会も行い、新入生同士のコミュニケーションも積極的に取ってもらいたい。

関西学連 遠藤 匠真

【人数について】

関西学連の新入生は、推計 84 名(6/10 現在)です。総加盟員は、前年比+13 名の 231 名となります。(加盟登録 DB より)

84 名という人数自体は前年比-3 名なのですが、そもそも 26 年度を境として新入生の人数が 70 名強から 85 名前後へと増加しており、この高止まり傾向を維持できたという点では成功として構わないでしょう。

中でも前年度加盟員 14 名のところ新入生 7 名を迎えた神戸大学は着実に成長を遂げています。

【広報について】

・媒体

例年通りの媒体に加え、昨年度から LINE@を活用する加盟校が散見されます。メールアドレスよりも登録してもらいやすい(個人差有)、一斉送信が楽といった利点が挙げられ、特に神戸大学で重宝したようです。しかし無料アカウントには送信件数制限があるため、登録者数の多い大阪大学では致命的な欠点となりました。本格的に使うのであればきちんと予算を設けて課金する必要があるようです。

また、ネット印刷で上質なビラを作成するなど従来媒体にもまだ改善の余地は残されています。Twitter のほかに Instagram を加えれば新たな層を発掘できるかもしれません。私にはよくわからない世界ですが。

・タイミング

効いたよね 早めの広報 ということに尽きます。大学によっては入学前の勧誘規制もあるものの、可能な限り早めに囲い込むことで競技そのものの魅力のみならず団体の雰囲気にも溶け込んでもらえます。

・内容

新歓行事の日程や時間などは“具体的”かつ“詳細”な広報が必要であると思われます。これは新入生の混乱を防ぐというのに加え、広報段階で詳細な予定を立てることにより、直前でワチャワチャするのを避ける効果もあります。

【その他反省点】

・新入生の多様性

まずは新入生の人数を確保するのが先決なのですが、その後の部の運営を考えたとき、学部などに極端な偏りがあると少し困ります。特にキャンパスが複数に分かれる場合、活動拠点側のキャンパスに在籍する部員の負担が増えてしまいます。この学部の部員が少ないから今年は重点的に勧誘しようといった工夫が求められることもあるでしょう。

ICR のエリートのことを考えれば男女比も懸念材料です。各校あまりにサンプルが少なく、どうすれば女子が入るのかという知見の蓄積ができていません。これは今後の課題になります。

・モチベーション

2 か月に及ぶ新歓でやる気を維持するのは難しいうえに雰囲気もギスギスしがちです。これを反省として挙げている大学も複数ありますが、こればかりは毎年恒例でどうしようもないことです。

しかし 8 年前の関西は、総加盟員 79 名という冬の時代でした。新歓をミスればすぐにそうなるという危機感新歓にあたって皆が共有すべきことです。

もちろん危機感に加え、新歓を楽しむのも大切なことでしょう。新入生が増える→翌年の新歓が楽になる→新入生が増える というポジティブフィードバックを創出できれば理想です。 来年楽するために今年がんばるくらいの気楽な心持ちでよいのかもしれませんが、新歓に限った話ではありませんが、何かを改善していこうとする前向きな動きは、気持ちの余裕があってこそだと思われます。

・引き継ぎ

大阪大学では”情報の共有”というワードが一部で流行しました。情報が共有できていないことを揶揄したものです。

引き継ぎというと資料を翌年度以降に残す印象が強いですが、先輩からのちょっとした助言や、同期の間の連絡も立派な引き継ぎであると言えます。不要なトラブルを避けるためにも、前述のように新歓を楽にするためにも、報連相を主軸とした”情報の共有”が求められます。

また、いずれは関西の 5 校でそれぞれ蓄積された新歓ノウハウを学連で集約できればと思います。各校の事情に依存しないノウハウであれば互いに役立てることもできるでしょう。

北東学連 丸山 真輝

今年度の新歓はすべての加盟校でうまくいっている印象でした。東北大では未曾有の 50 人オーバーを達成しました。とても嬉しいのですがその反面、全員の面倒(?)を見ることが難しくなっていると思いました。

一方、学連登録二年目の人達がやめてく(来なくなる)人数も多いと思いました。仲良くなったグループで大人数が一気に入るが全員で一気に入めてくパターンが多いです。(特に女子)

面倒を見て、よりオリエンテーリングを知って深くはまってもらうために何が出来るかを考える。それらがこれからの課題だと思いました。

いただいたカラーのピラはとても好評でありがたかったとのことでした。

関東学連 上野 康平

関東学連の新歓は概ね成功したと思います。どの大学に聞いても、たくさんの新入生が入ったと言っていました。さらに新しい大学からもオリエンテーリングを始めてくれる新生が増え、加盟・準加盟校数はとても増えました。

これからは入ってくれた新生には定着してもらい、オリエンテーリングを好きになってもらえるよう頑張っていきましょう。準加盟校にはこの勢いのまま、来年度より多くの新生が入るよう頑張っていってほしいです！

広報部長 坂野 翔哉

地区学連幹事長や日本学連幹事長ほどの広い視野は無いので、私の所属する早大 OC や東京理科大学の新歓についての話になります。早大 OC は 4 年間で人数がほぼ倍になり、理科大学は設立時の 1 人から四年目で 13 人にまでなりました。人数が増えるのは春の新歓でとにかくたくさん呼び込んで、定着させるべく全員が奔走したためですが、多くの工夫と毎年の改善があります。そうしたノウハウは今後幹事長を中心に情報共有してもらえと思っています。

入った後輩たちは活動頻度やハマり方は人それぞれでも、お互いの楽しみ方を尊重しながら協力しながら楽しくやっている姿が見られます。まさに今年の早大 OC の新歓のキーワードに「多様性」という言葉がありました。まあ私が言い出したのですが、大切なことだと思っています。

新歓について私の考えは、人を集めるのは手段で、世の中に広くオリエンテーリングを普及することが目的だと考えています。オリエンテーリングが楽しいスポーツであること、健全な活動で公正な競技であることを、新歓する側は胸を張ってそれらを広く世に宣伝するべきだと思います。新生は上級生が楽しく活動しているかクラブの雰囲気を実によく見ているので、上級生がいかに楽しく活動するかもかかっています。というわけで、今年も 1 年間(もうあと半年ちょっと…)楽しくオリエンテーリングしていきましょう！

巻頭写真：横瀬町から武甲山を望む 編集者撮影

【編集後記】

こんにちは。「いぶき」編集担当、日本学連広報部長の坂野です。

幹事長が述べた通り、人数増えるといいことだらけです。さらに学校も増えると「多様性」が増して面白いです。オリエンテーリング業界最大の新人勧誘窓口である学連が維持発展しなければ日本のオリエンテーリングが危ないです。最近そういう話に行き着く議題が多いです。

次号のいぶきでは「オリエンテーリング大会参加の要因」について特集予定です！

巻頭写真は大会参加の際に近くのを撮るのですが、出来が時間的余裕と精神的余裕にかかっていると感じます。

あとフォントを MS 明朝から游明朝に変えてみましたがどうでしょう、ゆったりした感じが私は好みます。

日本学生オリエンテーリング連盟広報紙 「いぶき」 2017 年度第 2 号 2017 年 8 月 20 日 発行

編集責任者：坂野翔哉 (広報部長・東京理科大学)

日本学連ホームページ：<http://www.orientteering.com/~uofj/>

日本学連 Twitter：@tw_uofj

日本学連広報部メールアドレス：uofj.koho@gmail.com 「いぶき」に関するご意見・ご要望などは、こちらまでお寄せください。